

目に見えない何かに挑戦

～リサイタルを控えた菊本千永さん（藤田佳代舞踊研究所）～

JR住吉駅から北へ5分、ビルの階段を上ると「藤田佳代舞踊研究所」の看板が掲げられ、藤田先生をはじめ所員の皆さんがお出迎えに。今回メインでお話を伺った菊本千永さんに2度目の訪問であることを告げると、「はい、兵庫県芸術奨励賞を頂いた時にも来て頂きました」とのお返事が帰って来ました。後で調べてみると2002年ということで、覚えていて下さった感激と、「探訪記」そんなに長くやってるんだと改めて実感。



そんなわけで、17年ぶりのご登場と相成ったわけですが、今回はご自身のリサイタルが近づいているということで伺いました。

「95年でした、(藤田佳代さんから)私も含めた5人のメンバーに『年1回、1人ずつ順番にリサイタルをやりなさい』と言われまして。自分のやりたいことを企画してということなんです、まだ若かったので自分でプロデュースしてなんて考えてなかったですね」

菊本さんのスタートは96年、以来ほぼ6年毎に開き、今回11月に「菊本千永モダンダンスステージV」に挑みます。レパトリーは、例年春に行なう創作実験劇場で発表したものから数本と新作1本によって構成。

「靈感とかあるわけじゃないんですけど、生きていて目に見えるものだけではないんじゃないか、今生きている私、私を送り出したもの、私が生み出すもの、そういう大きな世界に今回は挑戦したいと思って」

今回の会場は東灘区のうはらホール。フラットなエリアの客席を取り払ったスペースと本舞台とを併用したステージになるようです。

「舞台を観てお客さんがそれぞれの受け取り方をしてもらえればいいと思っています。ですから、こちらから提示するものは最小限にして」

実際、チラシのプログラムでそれぞれの作品に添えられて



いるコメントは“ここは月の森 一つの命がひっそりと目覚め ひっそりと眠りにつく”といった風に一言だけ。正に、想像力が掻き立てられますよね。

菊本千永さんが所属されている「藤田佳代舞踊研究所」は、今更になります、設立から41年という神戸老舗のモダンダンススタジオ。この日は代表の藤田佳代さんにも同席頂きました。これまで多くの方々がここで学んで来られたわけですが、中には引きこもりがちだった子どもさんが、イキイキして帰って行かれる姿も目にしたと言います。

「頭の中から爪先まで血を巡らせれば、リフレッシュ出来るってということじゃないでしょうか」

子どもさんがステージに立つことはしばしばありますが、この10月に行われたばかりの発表会ではそのお父さん方も舞台に。お母さん方は衣装づくりと、正にファミリーで公演に参加されています。一方で菊本さんからこんな声も。

「悩みの1つは会場押さえですね。同じ日に3人が3か所に分かれて抽選に行って、時間差を利用して1か所ダメだったら次また次という風でやっと」

そんなご苦労の中、スタジオだけでなく「支部教室」として市内は勿論、大阪奈良まで20か所近く、所員の皆さんが指導に向かわれています。「後継者がいいですね」と言うと藤田佳代さんはニコリ。現役は退かれても“研究”はまだまだ続きそうですね。(劇団四紀会：里中)



「菊本千永モダンダンスステージV」

11月9日(土)17時半～
東灘区民センターうはらホール
前売3,000円(当日3,500円)
TEL/FAX 078-822-2066
E-mail fkmds@muf.biglobe.ne.jp

むこう

2019年10月20日発行
第161号

〒650-0044
神戸市中央区東川崎町1-5-7
神戸情報文化ビル3F文化村
連絡先 TEL・FAX (078) 361-5056
e-mail: kobe_honmanokai@yahoo.co.jp
http://honmanokai.news.coccan.jp/

神戸をほんまの文化都市にする会